

区内野鳥生息状況

野鳥生息調査結果

(1) 目的

江東区環境基本計画に基づき、野鳥の生息調査を実施することにより、江東区内の野鳥生息状況を定期的に把握し、野生生物保護と生態系保全の基礎資料としています。

(2) 調査期間

平成20年6月から平成21年2月まで。

(3) 調査地域(平成20年度)

野鳥生息調査地域と調査地域の特性

- 1 都立亀戸中央公園 [旧中川沿いの都市公園]
- 2 都立猿江恩賜公園 [横十間川沿いの都市公園]
- 3 仙台堀・横十間川親水公園 [江東内河川沿いの親水公園]
- 4 荒川(新木場)周辺 [大きな河川とその河川敷の水辺公園]
- 5 豊洲運河(越中島)周辺 [大きな河川とその河川敷の水辺公園]

(4) 調査方法

定点センサス法またはロードセンサス法により観察される水鳥の種類と出現数を記録しました。なお、本調査ではカイツブリ科、ウ科、サギ科、ガンカモ科、クイナ科、チドリ科、シギ科及びカモメ科の8科に属する野鳥を水鳥としました。

(5) 調査結果

【1】 概要

出現した水鳥の種類は22種でのべ3,048羽でした。科別では、出現したのは7科であり、カイツブリ科2種8羽、ウ科1種321羽(出現率2.2%以下同じ)、サギ科4種71羽(0.5%)、ガンカモ科9種2,054羽(67.4%)、クイナ科1種8羽、シギ科1種1羽及びカモメ科4種585羽(19.2%)でした。ガンカモ科の水鳥が出現種類及び出現数ともに最大となり、本区の冬季の水鳥を代表するこ



かわせみ



亀戸中央公園隣旧中川 キンクロハジロ

とがわかりました。

出現した上位 5 種類は、(1)キンクロハジロ 760 羽(24.9%)、(2)ユリカモメ 479 羽(15.7%)、(3)ホシハジロ 345 羽(11.3%)、(4)オナガガモ 330 羽(10.8%)、(5)カワウ 321 羽(10.5%)の順であり、これら上位 5 種類で出現総数の 73.2%に達しました。

シギやチドリも水鳥の代表ですが、出現数はシギ科の 1 羽のみであり極端に少ないことがわかりました。

【2】 月別調査結果



ア. 6月の調査結果

猿江恩賜公園 カルガモ

出現種類 9 種で 107 羽であり、この時季は水鳥が少なく、カモ類では、カルガモが仙台堀・横十間川親水公園などで 20 羽出現しました。他にはオナガガモ、ヒドリガモが豊洲運河で 1 羽ずつ出現しましたが、これらの個体は渡りをせずに越夏したものと思われます。カルガモは仙台堀・横十間川親水公園で繁殖していることが確認されました。カワウは豊洲運河などで 62 羽出現しました。豊洲運河で夏鳥である希少種のコアジサシが 1 羽出現しました。

イ. 9月の調査結果

出現種類 8 種で 343 羽であり、6 月と比べて出現数が増加しました。カモ類ではカルガモが 73 羽出現したほか、スズガモが 2 羽出現しました。9 月は秋のシギ・チドリの渡りの時季ですが、出現しませんでした。カモメ類ではウミネコが荒川で 72 羽が出現しました。南下する途中の個体と考えられます。



仙台堀川公園・横十間川親水公園 アオサギ

ウ. 12月の調査結果

出現種類 17 種で 1,145 羽であり、9 月と比べて種類数、出現数ともに大きく増加しました。これはカモ類などの水鳥が越冬のために区内の水辺に飛来したことによります。とくにカモ類は 9 月が 2 種類 75 羽であったのに対して 12 月は 9 種類 97 羽に激増しました。出現数の上位 3 種は、キンクロハジロが 454 羽で 51%、ホシハジロが 185 羽で 21%、オナガガモが 71 羽で 8%でした。カモメ類では、越冬するユリカモメが 160 羽出現しました。サギ類は 3 種出現し、そのうちゴイサギは 12 羽であり年間でもっとも多く出現しました。冬になると水辺は野鳥でにぎやかとなります。



新木場緑道公園 ハクセキレイも見られます。



エ. 1月の調査結果

亀戸中央公園隣旧中川 オナガガモ

出現種類 18 種で 812 羽であり、12 月について出現数が多くなりました。カモ類は 8 種類、出現数は 655 羽であり、そのうちキンクロハジロが 223 羽でもっとも多く、ついでオナガガモ、スズガモの順で出現しました。カモメ類では、ユリカモメが 128 羽出現しました。カイツブリ類ではカイツブリ 1 羽、荒川河口部のみに出現するカンムリカイツブリ 2 羽が出現しました。

オ. 2月の調査結果

出現種類 15 種で 641 羽でした。カモ類は 7 種、出現数 402 羽に減少しました。豊洲運河ではクイナ科のオオバンが 6 羽出現しました。なお、ここでは護岸工事が行われていました。カモメ類では、ユリカモメが 191 羽、セグロカモメが 13 羽出現し、年間でもっとも多くなりました。また、カイツブリ類のカンムリカイツブリが 1 月に続いて 5 羽出現しました。



新木場緑道公園(荒川) カンムリカイツブリ

【3】 地域別調査結果

ア. 亀戸中央公園

年間で 9 種、のべ 514 羽が出現しました。公園東端を流れる旧中川の河川敷の整備により親水機能が向上した結果、12 月から 2 月までの冬季にカモ類やユリカモメが集まります。出現したカモ類は 3 種です。昨年まではオナガガモが多く見られたのがこの地域の特徴でしたが、今年度はもっとも多い 1 月でも 25 羽で、昨年の 10 分の 1 程度の出現数でした。他の



仙台堀川・横十間川親水公園 キンクロハジロ

地域でよく出現するカルガモはここでは出現しませんでした。12月、2月にヒドリガモが数羽出現しました。ユリカモメは2月に167羽が出現しました。例年出現するシギ類のイソシギは今年度は出現しませんでした。

イ. 猿江恩賜公園

年間で6種、のべ250羽が出現しました。公園内に3ヶ所の池があり、また東側に横十間川があるため冬季にカモ類などが集まります。12月から2月にかけてカモ類が集まります。2月にオナガガモ53羽、12月にキンクロハジロ49羽が出現しました。この特徴はコガモが出現することですが、12月に2羽出現しました。また、公園北側の池でユリカモメが12月に18羽出現しました。なお、9月にカワセミが1羽出現しました。

ウ. 仙台堀・横十間川親水公園

年間で10種、のべ373羽が出現しました。冬季に公園中央の「野鳥の島」周辺や、その西側の仙台堀川にカモ類が多く出現します。もっとも多いのはキンクロハジロで、1月に50羽が出現しました。カルガモは、毎回15～24羽出現しましたが、初夏にここで繁殖していてヒナを6月に3羽観察しました。その他オナガガモ、ホシハジロ、マガモが出現しました。横十間川と仙台堀川の交差点にある「野鳥の島」ではゴイサギ、アオサギ、コサギが出現しました。

エ. 豊洲運河(豊洲1丁目周辺)

年間で17種、のべ1,757羽が出現し、種類数、出現数ともに5調査地域でもっとも多くなりました。7種類のカモ類のほか、カワウ、サギ類、オオバン、カモメ類が出現しました。

カモ類ではスズガモが1月に72羽、キンクロハジロが12月に364羽、ヒドリガモが2月に91羽、ホシハジロが12月に183羽出現したほか、オカヨシガモが12月に41羽。マガモが1月、2月に4羽、オナガガモが1月に64羽出現しました。このうちスズガモは毎回出現しました。

カモ類以外ではオオバンが3回出現し、2月には6羽が出現しました。シギ類は出現しませんでした。カモメ類ではウミネコが9月に64羽出現したほか、セグロカモメ、ユリカモメが出現しました。

コアジサシは、6月に1羽のみ出現しました。コアジサシは夏鳥として渡来し、日本で繁殖するアジサシ類ですが、近年生息数が激減していて絶滅危惧種に指定されている貴重な水鳥です。また、カワウは年間を通じて出現し、最大数は9月に155羽でした。またアオサギが1月を除いて毎回2～5羽出現しました。1月にはカイツブリが1羽出現しました。

オ. 荒川(新木場)周辺

年間で12種、のべ154羽が出現しました。ここは荒川の河口にあたり、内湾の水鳥が出現するのが特徴です。出現したカモ類は4種類で、スズガモが1月に54羽出現したほか、ヒドリガモ、カルガモ、ホシハジロが出現しました。

この特徴は内湾に生息するカイツブリ類が冬季に出現することですが、カンムリカイツブリが1月

に2羽,2月に5羽出現しました。ときどき出現するハジロカイツブリは今年度は出現しませんでした。

カモメ類ではセグロカモメ、ウミネコ、ユリカモメが少数出現しました。またシギ類のイソシギが12月に1羽出現しました。カワウは毎回出現しました。全調査地域で唯一ダイサギが1月に1羽出現しました。



水鳥の群れ(新木場緑道公園から浦安方面を見たところ)

新木場緑道公園では、メジロやモズが見られることもあります。



メジロ



モズ